

ユニバーサルな施設のための 音響・音声システムの開発

背景と目標

公共空間のバリアフリー化が進み、視覚障害者への配慮から、音響や音声で情報提供する機器が急増している。

バリアフリーの進展は喜ばしいが、『不要な時にも鳴って、うるさい』という苦情も徐々に増えつつあり、ユニバーサルな環境とはいえない。



※通り過ぎる人にも音声案内する

※常時鳴る



※隣の音がうるさい

『必要な時に、必要な人に、必要な音量で！』
情報提供する 音響・音声システムを開発。

開発内容

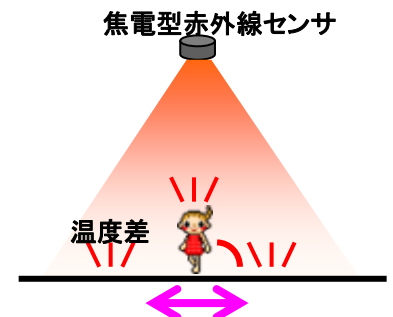
(a) 人感センサの高度化

人を感知する一般的なセンサ = 焦電型赤外線センサ

- 人から発せられる赤外線を検知
- 焦電型では動いている人の存在を検知

✕ 動きがないと検知しない ・ 人の存在しかわからない ・ 誤反応が多い

○ 安価 ・ プライバシー保護 (トイレ、お風呂などではカメラは嫌われる)



必要な時に

焦電型赤外線センサを目的に応じた知的なセンサに！

(b) 音量自動調整

周囲の騒音レベルは、

- 時間帯などで変化する。
- ドアの開閉や電車の通過のような一時的に変化する。

✕ 同じ音量では「静かな時はうるさい」、「うるさい時は聞こえない」

騒音レベルに対して適切な音量に調整！

必要な音量で